



根室半島沖地震 昭和48年6月17日



北海道東方沖地震 平成6年10月4日

地震・津波 突然にやっつく

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、国内観測史上最大の地震となり、みぞうの被害を生み日本各地に大きな爪跡を残しました。

この震災により、全国的に防災体制のあり方が問われ、食料品の備蓄、通信手段の確保や暖房対策など、避難の長期化に向けた対策の充実・強化が課題となっています。

根室市においても、それら災害用備蓄品の購入や地域防災計画の見直しなど、防災対策の一層の充実・強化を図って行きますが、地域防災力向上のため、市民の皆さん一人ひとりが災害について考え、突然やってくる災害に備えることも大切です。

地域防災の3つの柱

災害が発生してから、正常な状態に復興するまで重要となる災害対策は、「自助・共助・公助」の3つに分けられます。

東日本大震災では、その想定を超えた地震・津波の脅威により、役場自体が被災し行政機関が機能しなくなった地域もありました。

このような大規模災害時に、「公助」が機能するまでには通常3日かかるといわれ、その間に重要な役割を担っているのが「自助・共助」になります。

自助

自助とは、災害に備えて自らの安全のために行うことです。自助の代表例は次のとおりです。

- ・非常持ち出し品の用意（食糧・飲料・医薬品など）
- ・家具の転倒防止
- ・住宅の耐震化

共助

共助とは、自分だけでは解決が困難なことについて、周囲や地域が協力して行うことです。共助の代表例は次のとおりです。

- ・家族で備える（家族会議「役割分担、集合場所、避難経路など」）
- ・地域で備える（自主防災組織の結成）
- ・被災者の救助
- ・負傷者の救護